

新潟大学名誉教授・**安保 徹** 氏（『免疫革命』）**推薦！**

川田靖子 著 気づきの医学 東洋医学からの警鐘

KADOKAWA 刊 定価：1,600円（税別） 2015年11月17日発売

「命の叫びに耳傾けよ」

健康に不安を抱える現代人に
東洋医学の医師がおくる「気づきの医学」の物語



■本書の内容

病に対する見方を変える「気づきの医学」——東洋医学の本質とは？ 現役医師の川田靖子氏が、癌治療に苦悩する男性の身体への「気づき」の物語を通じて、治療の実際、生命の本来もつ力を描く。現代医療のあり方に疑問を投げ、「身体」を知ることの大切さを語りかける。安保徹氏の解説を収録。

現代医学の現実

- ・病気を悪の根源と捉えて憎み、攻撃する
- ・検査画像や数値データによって病気を判断する
- ・対症療法による過剰投薬の傾向がある
- ・診察に短時間しかとれない
- ・癌を、手術、放射線、抗癌剤で除去する
- ・患者が自己を見つめることなく、薬や病院に頼る

東洋医学の考え方

- ・なぜ病気が形成されたか、過去に遡り、治療の足がかりを見つけだす
- ・患者の自分の身体への「気づき」を治療に結びつけ、全人的医療をめざす
- ・生活を見つめなおし、身体に状態を問いかけながら日々を大切に過ごすことで、自分を守る健康予防につなげる

大手建設会社に勤めていた福山一男は、定年後、仕事上のつきあいのあった会社に再就職。多忙で不規則な生活が続いていた。生来元気で病気とは無縁だったが、声がおかしくなり、病院で「喉頭癌」と診断される。入院し、放射線治療を受け、そこで彼は癌患者の苦悩を経験する。しだいに精神的肉体的に追い込まれ、ついには病院を飛び出してしまう。苦悩の日々が続く中、娘からの一本の電話で東洋医学との出会いがおとずれる。多くの「気づき」を得て、妻・里子とともに送る、生命の再生にかける日々の物語。

■川田靖子（かわだ やすこ） 東洋医学医師／医学博士

宮城県仙台市生まれ。埼玉医科大学卒業。病院勤務時代に、西洋医学の対症療法に限界を感じ、東洋医学に転じる。現在、「かわだ東洋クリニック」（川崎市新丸子町）にて、漢方薬・鍼灸・整体・瞑想・心理学を統合した全人的視点からの治療を行っている。